

今年4月に公表され話題になっている、人間ドック学会提案の健康診断の基準範囲。そもそも基準範囲を設定すると言うのは、完全には分離していない健康な人と病気の人の測定値を、どこで区切るか判断する作業のことです。今度の基準設定方法は今までとどこが違うのでしょうか。

### 基準範囲設定方法の比較

※この表の方法以外に、病理学的・生理学的観点から設定される基準範囲もあります。

	人間ドック学会	現在使われているもの
第一段階	過去や現在かかっている病気、生活習慣などを基に定められた基準からみて、健康な人（医学的に健康な人たち）を選ぶ	
第二段階	学会が定める9つの検査項目それぞれについて、測定値を上から下まで順に並べ、稀な値である上下2.5%を除外。9つ全てで95%の範囲内の人を選ぶ	基準を設定したい検査項目の測定値を上から下まで順に並べ、稀な値である上下2.5%の値を除き、上限値と下限値を設定する
第三段階	基準を設定したい検査項目の測定値を統計的に処理して偏りを修正。稀な値である上下2.5%を除外し、上限値と下限値を設定する	いろいろな調査（疫学調査）の結果、このぐらいの値が続くとこんな病気になるリスクが上がるとわかった場合、リスクが上がらない値を設定する

大まかにはこんな感じかな

おそらく今は健康であるが、病気を発症した人と同じ値なので注意が必要な値を、基準範囲外にしたのが現在の基準、基準範囲内にしたのが人間ドック学会

大きな違いはここ!

両方の基準に共通する大切なこと

- ◆ 基準範囲＝正常範囲ではない  
例) 肝硬変があっても、肝機能の血液検査結果が“基準範囲内”の場合あり
- ◆ 個々人について正確に判定できる全員共通の基準はない
- ◆ 定期的に検査を受けるなどして“自分のいつもの結果”を把握し、変化があった時ちゃんと気付けるようにしておく
- ◆ 生活習慣が乱れていたり治療中の疾患がある場合、測定値について自己判断せず、掛かりつけ医や産業医などに相談する